

7月の野菜の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
だいこん		8,283	95%	8,923	119	92%	93	-	-	青森産は他品目の作業の遅れを受け、計画通り播種ができず。作付減の中、現状、地温が上がらず肥大も鈍く、7月も平年作を下回る見込み。北海道では大雨のため撒き直した地域も散見される。現状、低温のため生育進度はやや遅れはあるも、7月には回復の見込み。作付減の流れもあり、月計の予想も予想入荷量は前年比95%。青森産の品薄から上旬まで堅調推移するも、中旬には北海道産の産地が出揃い下げ気配強まるが、増量ペースは鈍く、下旬には強含みの展開が予想される。価格は高値の前年よりやや安も平年よりは高め。
ねぎ		3,792	102%	3,906	384	96%	349	11	0.0	現状、乾燥のため太物の発生は少ないが、平年作と順調。適度な降雨があれば肥大回復の見込み。7月中旬からは北海道、東北産とも例年通り販売開始の見込み。関東産は夏ねぎの作付増の流れもあり、月計の予想入荷量は前年比102%と微増。6月下旬から関東産はトンネルから露地への移行が進む。下旬は学校給食等の需要もなく、弱含みの展開が予想される。
きゅうり		6,835	1	7,468	324	86%	261	446	0.1	夜温上がらず、現状、東北産の生育は遅れ気味だが、花付き、着果状況とも目立った問題は見られない。上旬は西南暖地産、関東産の切り上がり及早まる中、東北産の増量ペースは鈍く、不足感はあるも気温上昇にともない出回り順調の見込み。作付減の産地もあり、月計の予想入荷量は前年比98%とやや減。上旬は品薄傾向となり強含みの展開も下旬には東北産の増量により下げの見込み。価格は基調高の前年比安だが平年よりやや高。
なす		3,370	1	3,477	388	102%	358	-	-	関東産は低温、干ばつの影響で生育遅延。回復は今後の天候次第だが、露地作は自然減の流れもあり、月計の予想入荷量は前年比98%と微減。上旬は西南暖地産が減り込む中、関東産は増えきらず、価格は強含みの展開も下旬は高悩みと露地作の増量により下げ気配強まる。価格は基調高の前年並み、平年よりやや高。

7月の野菜の見通し

品目	区分	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		コメント
		前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年実績	前年比見込(%)	5カ年平均	前年入荷量(t)	前年占有率(%)	
トマト		7,861	前年並み	8,501	322	96%	315	324	0.0	現状、北海道、東北、関東産地とも乾燥と夜温が上がらず、着色は遅れ気味だが、花付き、着果状況は順調。出荷ペースは平年よりやや遅れは見られるも、7月には平年ペースに回復の見込み。ミニトマトへの転作、生産者高齢化による自然等で各産地とも作付微減の流れにあり、月計の予想入荷量は出荷の谷間となった前年とほぼ同じ。上旬は出方はやや鈍く、上げ気配強まるが、「海の日」前後にはまとまった量が出て下げに転じる見通し。価格は前年より若干安だが平年並み。
ピーマン		1,792	前年並み	1,941	416	84%	355	-	-	茨城産は作型の移行期で7月は減りながらの推移となるが、作柄は平年作と順調。後続の東北産は現状、朝夕の冷え込みで増量ペースは鈍いが、着果量は確保されており、気温上昇にともない順調な出回りが見込まれる。月計の予想入荷量は前年並み。上旬は東北産の出遅れが回復しきれず強めの予想も中旬から東北産の増量により軟調推移。入荷前年並みも前年より品薄感は弱く、価格は高値の前年比安も平年並み。